

自由に音源が使えるか、確認が必要ではないか？」

事務局「確かにJRの音を使う場合は確認が必要。できれば車内の音を使いたい。車内放送などは著作権があるかもしれない。電車の走る音や空港の音など地域の音を集めて放送すれば三原に住んでいない方も懐かしく思ってもらえるのではないかと考えている。」

B 氏「現在、FMみはらでは生放送時間帯のリスナーをどのようなターゲットと想定しているか？」

事務局「朝と夕方の番組は通勤時間に放送している。ビジネスパーソンに聴いて頂ければと考えている。また、午後2時から午後5時は車を使って移動している営業担当者や配達員の方を対象と考えている。」

その他、別段の異議なかった。

続いて局から「三原市シティプロモーション認定事業『しまのわ文庫』の特別番組『みはらうた』の制作について、説明を行った。

事務局「全てしまのわ文庫実行委員会の皆さんが作成した番組。以前から作られている詩集を多角的に展開しようということで市に事業計画書を提出しそれが認可された。そして、ラジオ番組化した。放送素材は全て自分たちで作っている。朗読も詩の作者が担当し、演奏も関係者の方で作っている。この番組は朝6時、夜8時30分ごろから木曜、金曜に流している。」

6. 審議内容

第一号議案「番組審議について」番組名「モーニング」内コーナー「週末のレポートコーナー 木原道路開通前記念イベントレポート」座長は『モーニング』内コーナー『週末のレポートコーナー』について事務局に説明を求めた。

事務局「FMみはらでは積極的に外に出てインタビューを集めるということに取り組んでいる。今回は木原道路の開通記念イベントでの取材を行った。」

C 氏「取材して三原の今を伝えるのはとても良いと思う。今回の収録は風が強かったりしても、一部聴きにくいところもあるが、逆に臨場感があっていいと思う。」

D 氏「ノイズがあるのは確かにもったいないと思った。コロナの関係上、社会全体が疲弊している状況で、何か1つでも元気になるような話を引き出してもらえればと思う。元気の出るラジオになって欲しい。」

A 氏「パーソナリティーの説明の後、取材したものを一気に流している。できればパーソナリティーの話と取材したインタビューを交互に、説明をさみながら進めていけば分かりやすいと思う。」

座長は他の委員に意見を求めた。
別段の異議はなく承認された。

議長は、第二号議案「ご要望」について、委員に意見を求めた。

A 氏「三原バイパス・木原道路のトンネルの中でFM みはらのラジオが聞けない。」

事務局「災害時などトンネルで聴けないのは問題。関係各所へ相談してみる。」

B 氏「幸崎など計7か所、中継器を建てたので4月1日からは聴こえづらかった地域の方も聞こえる様になる。世帯で言えば約2200世帯。」

事務局「以前から幸崎方面からは『聞こえない』というクレームが多かった。この中継器で環境が解消されるのはうれしい。」

C 氏「ヤッサ祭りなど大きいイベントで音を聴かせることについて何か考えていることはあるか。方向性や作り方について検討はできているか。」

事務局「今まではケーブルテレビの音を流させていただいていた。今後は独自の方法でやっていかなければならないと感じている。」

他、別段の異議はなかったので終了した。